

横浜市 浸水(内水・洪水)ハザードマップ (保土ケ谷区)

保存版

いざという時に確認できるように他の防災マップと合わせて保管しましょう

●浸水ハザードマップの使い方●

スタート 「1」日頃からの備えと大雨時の注意点」をご覧ください

浸水想定区域以外の方も、日頃から浸水に備えておくことが重要です。ハザードマップで想定した以上の大雨が降る可能性もあります。

あなたのお住まいや職場で浸水が発生するおそれがありますか？

この裏面の「①内水ハザードマップ(下水道や水路からの浸水)」と「②洪水ハザードマップ(河川はん濫による浸水)」の浸水想定区域を確認しましょう。

「①内水ハザードマップ」の浸水想定区域となっている方

「②洪水ハザードマップ」の浸水想定区域となっている方

「2」内水ハザードマップの活用」をご覧ください。

「3」洪水ハザードマップの活用」をご覧ください。

※両方のマップで浸水想定区域となっている方は、両方をご覧ください

浸水ハザードマップに関するお問い合わせ先

内水ハザードマップ
横浜市 環境創造局 下水道事業調整課
TEL: 045-671-2840

洪水ハザードマップ
横浜市 総務局 危機管理室情報技術課
TEL: 045-671-3454

横浜市

平成27年3月版



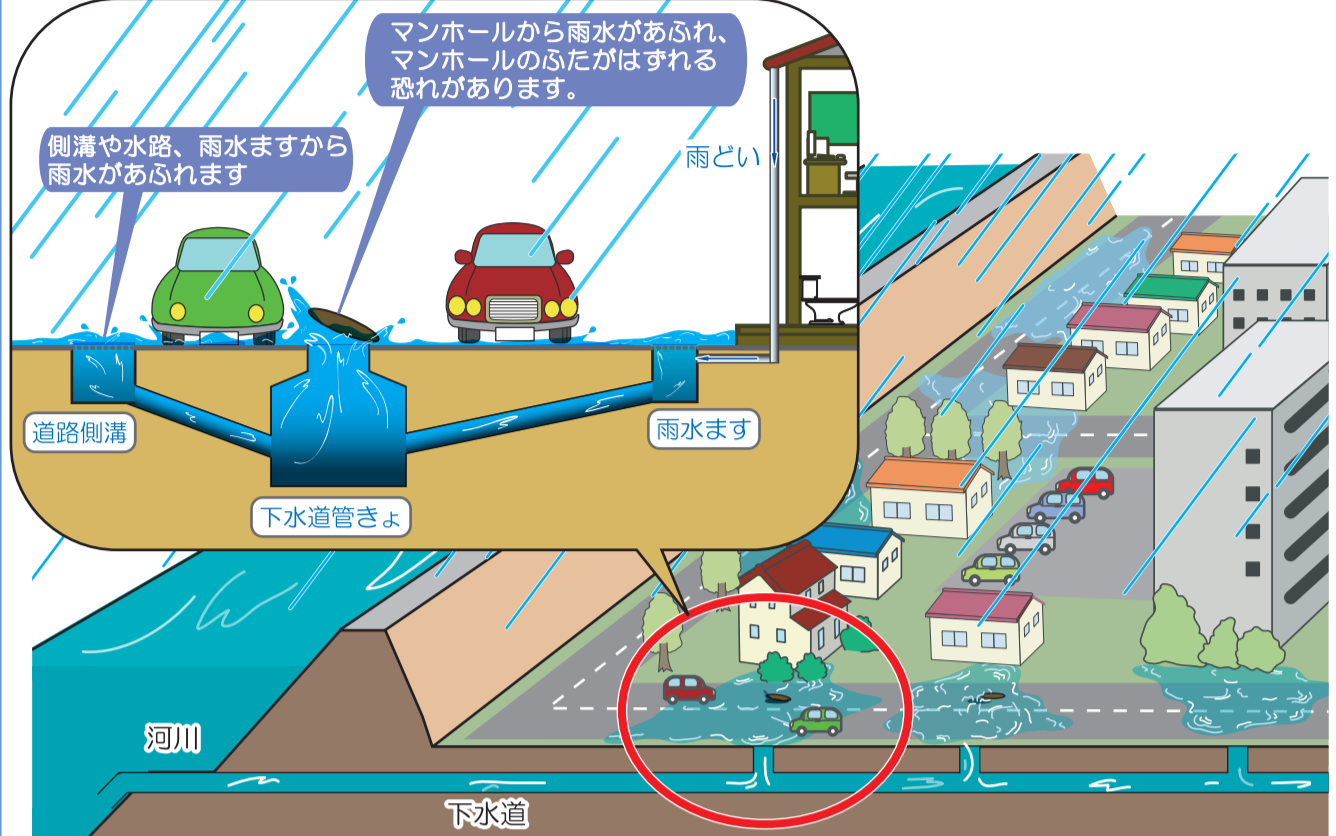
2 内水ハザードマップの活用

～地図面の「①内水ハザードマップ」で浸水想定区域となっている方へ～

○内水ハザードマップってなんだろう？○

下水道や水路などからの浸水とは？

街に降った雨は、下水道管や水路、道路側溝などを流れて河川に排水されます。大雨で下水道管や水路がいっぱいになってしまうと河川に排水できず、マンホールや雨水ます等から溢れて浸水を起こします。



内水ハザードマップとは？

内水ハザードマップとは大雨時に想定される下水道や水路に起因した浸水区域や水深などの、さまざまな情報をまとめたマップです。横浜市で近年大きな被害が発生した雨(1時間に76.5mm)が、全市域に降った場合に浸水が発生する区域を想定しています。横浜市では、1時間あたりの雨量が50mm～60mmに対応する下水道整備を進めています。近年下水道の能力を超えるような大雨が増加しています。内水ハザードマップは、下水道の能力を超える大雨に対して、市民の皆様の日頃からの備えや対策をとっていただくために作成したものです。

想定条件 ● 1時間に最大76.5mmの降雨
(約30年に1回降ると想定される降雨)
※平成16年10月9日(台風22号)に横浜市消防局野庭消防出張所で観測された実績降雨

○下水道や水路等からの浸水に備えよう○

浸水被害を防止、軽減させるために日頃から備えましょう

◎家にあるもので浸水を防ぎましょう。
土のうやプランター、家庭にあるごみ収集袋などを利用した水のうなどを使いましょう。



◎土のうを作り、長めの板などと組合わせて利用します。
◎プランターやポリタンクならべ、レジャーシートで包みます。
◎水を入れたポリ袋を段ボールに入れてならべます。

◎意外なところからの浸水に注意しましょう。
排水口などから逆流することがあります。水のうなどでふさぎましょう。



◎水のうで風呂場や洗濯機の排水口からの逆流を防ぎます。

注意 浸水防止対策は応急処置です。浸水の危険性を感じたときは、早めに安全な場所へ移動しましょう。

◎いざという時に安全な場所を確認しておきましょう。
下水道や水路等からの浸水は浸水深さが小さいため、2階以上の安全な場所を確保しましょう。

≪設計者・建築主の皆さんへ≫

◎過去に浸水被害のあった周辺やこのマップで浸水が想定される周辺の土地では、できるだけ半地下住宅・地下駐車場・機械式地下駐車場の設置はしないようにして下さい。設置する場合は、排水ポンプや止水板、土のうを用意しましょう。

環境創造局ホームページより浸水ハザードマップの説明動画を視聴できます。
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/gesui/naisuihm/>

○大雨が降ってきたら○

情報を確認し、周囲の状況を判断して適切な行動を!

◎降雨情報に注意しましょう。

雨の様子	やや強い雨 (1時間に10～20mmの雨)	強い雨 (1時間に20～30mmの雨)	激しい雨 (1時間に30～50mmの雨)	非常に激しい雨 (1時間に50～80mmの雨)
雨の様子				
屋外の様子	・ザーザーと降る ・跳ね返りで足元がぬれる	・土砂降り ・傘を差していてもぬれる	・バケツをひっくり返したように降る ・傘を差していてもぬれる	・ゴーゴーと滝のように降る ・傘はまったく役に立たなくなる
路面の様子	・一面に水たまりができる	・一面に水たまりができる ・側溝から雨水が溢れ始める	・道路が川のようになる ・下水道から雨水が溢れ始める	・水しぶきであたり一面、白っぽく視界が悪くなる ・マンホールから水が噴出する

◎路面の状況に注意しましょう。道路が冠水し始めたら、注意が必要です。

◎危険を感じたら適切に行動しましょう。
強い降雨が続いたり、道路の冠水が急に大きくなった場合は危険です。2階以上へ移動する等、安全な場所へ移動してください。



◎地下街や半地下住宅は浸水する危険性が高いので、雨が強くなってきたら早めに安全な場所へ移動してください。



◎地下駐車場や機械式地下駐車場は、水が一気に流れ込んでくる可能性があります。



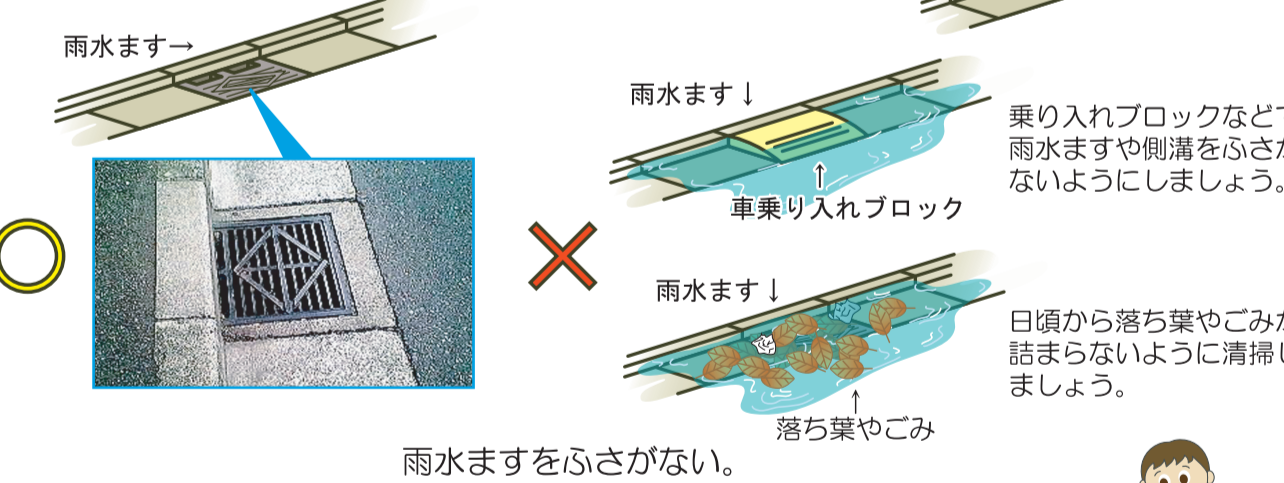
◎地下状道路(アンダーパス)は、大雨時に冠水する危険性があります。大雨時は、通行は避けましょう。

1 日頃の備えと大雨時の注意点

○日頃からの備え○

浸水被害を防止、軽減させるために日頃から備えましょう

◎側溝や雨水ますをふさがないようにしましょう。
◎吸い込み口が落ち葉やごみで詰まると、裏面のマップで浸水が想定されていない区域でも浸水することがあります。



◎大雨のときはお風呂等の大量の水を排水するのを控えましょう。
大雨のときは下水道管が雨水でいっぱいになっているので、大量の水を下水に排水するのは控えましょう。

降雨情報に注意しましょう

裏面のマップで浸水が想定されない区域の方も、降雨の強さや降り方によっては浸水する可能性があります。降雨情報は、横浜市防災情報のホームページや防災情報Eメールから確認できます。

横浜市 横浜市防災情報

レインアイよこはま
横浜市内の雨の強さが確認できます。

水防災情報
横浜市を中心とした河川の水位および河川の様子を見ることが出来ます。

消防局雨量情報
各消防署の雨量情報を見ることが出来ます。

横浜市防災情報から雨量や河川水位の様子を確認!
<http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/kikikanri/weather/top/>

横浜市防災情報の電子メール配信サービス
<http://www.bousai-mail.jp/yokohama/>

※電子メールの情報は無料ですが、通信料は受信者の負担となります。

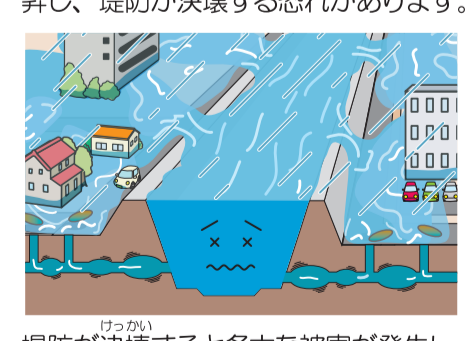
○大雨が降ってきたら○

浸水の発生の流れと皆さんのとるべき行動

●情報の種類・状況 ● 皆さんの行動 ●

→下水道や水路などからの浸水の危険

○テレビ・ラジオ・横浜市HPなどで気象情報に注意しましょう。
○横浜市HPなどで河川の状況を確認しましょう。
○外の様子に注意しましょう。
・道路の側溝やマンホールから大量の水が溢れる。
○強い降雨が続いたり、道路の冠水が急に大きくなった場合は危険です。2階以上へ移動する等、安全な場所へ移動してください。



注意 河川の急な増水時は、避難準備情報を経ずに避難勧告などを発令することがあります。

大雨注意報
大雨や洪水によって災害の起こるおそれのある状況

大雨洪水警報
大雨や洪水によって重大な災害の起こるおそれのある状況

避難準備情報
人的被害が発生する可能性が高まった段階

避難勧告
人的被害が発生する可能性が非常に高まった段階

避難指示
人的被害が発生する可能性が非常に高まった段階

特別警報
数年に一度しかないような非常に危険な状況
周囲の状況や市町村から発表される避難指示・避難勧告などの情報に留意し、ただちに命を守るための行動をとってください。

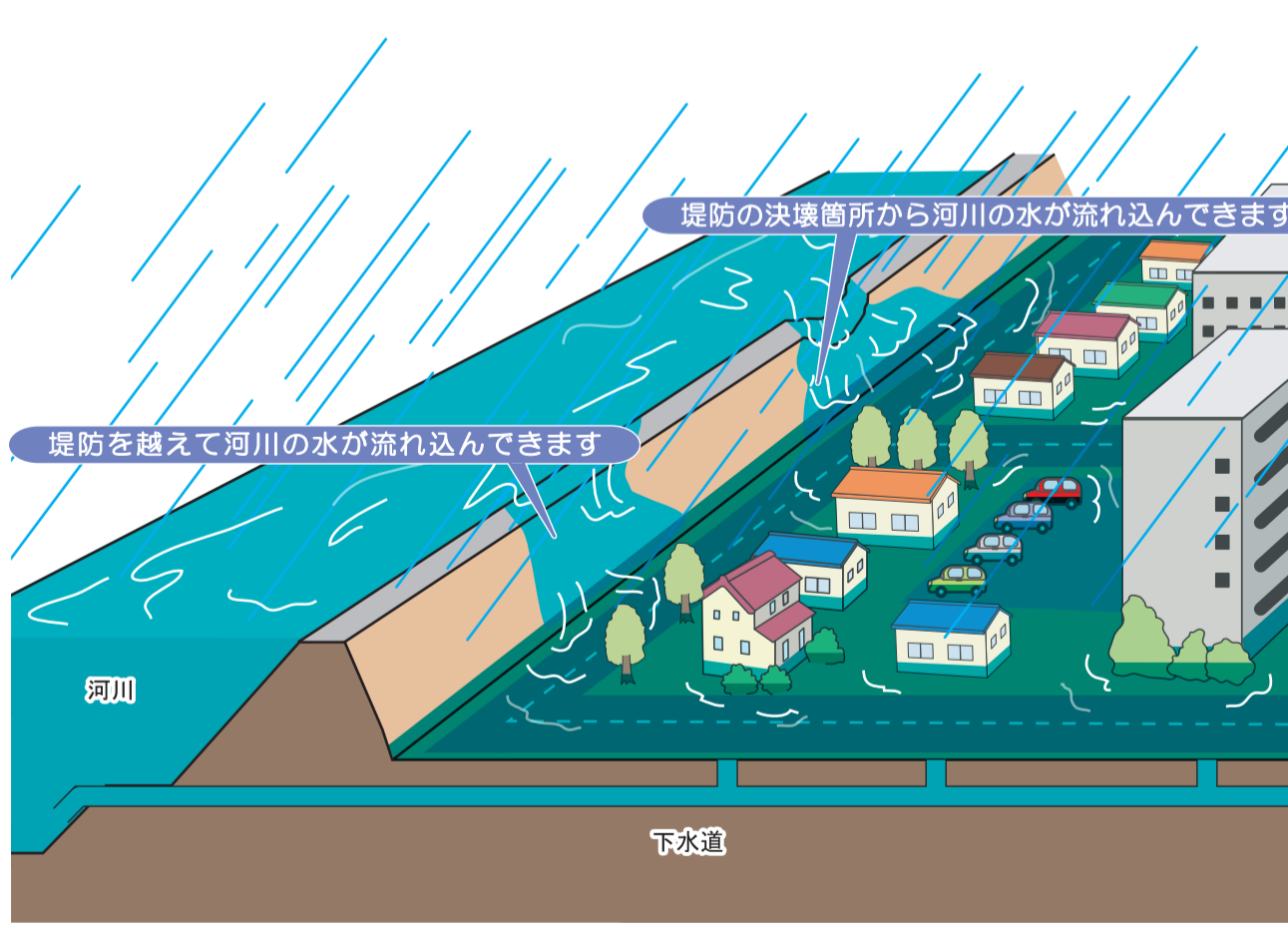
3 洪水ハザードマップの活用

～地図面の「②洪水ハザードマップ(参考図)」で浸水想定区域となっている方へ～

○洪水ハザードマップってなんだろう？○

河川はん濫による浸水とは？

大雨が降り続くと川の水位が上昇し、堤防を超え水が溢れだしたり、堤防が決壊して河川の水が街に流れ出します。これが河川はん濫です。



洪水ハザードマップとは?(参考図)

洪水ハザードマップは河川はん濫が想定される区域を示したもので、水防法に基づき平成19年に公表しています。河川がはん濫した際に、浸水が想定される区域の皆さんが、速やかに避難していただくためのものです。

想定条件 ● 1時間に約90ミリの降雨
(100年に1回降ると想定される降雨)
※横浜地方気象台では、平成10年7月30日に1時間で92mmの降雨を観測したことがあります。

○河川はん濫による浸水に備えよう○

自宅付近で安全な避難所を確認しましょう

◎自宅付近がどれくらい深さになるのか確認しましょう。
◎自宅から避難所までの複数の道順や方向を洪水ハザードマップに書き込みましょう。鉄道や高速道路を横断できる歩道橋(歩)や陸橋(橋)を確認しましょう。
◎河川から離れている場所でも下水道などが浸水することがあります。「内水ハザードマップ」で自宅付近の浸水想定区域を確認しましょう。



避難時の持ち出し品を確認しましょう

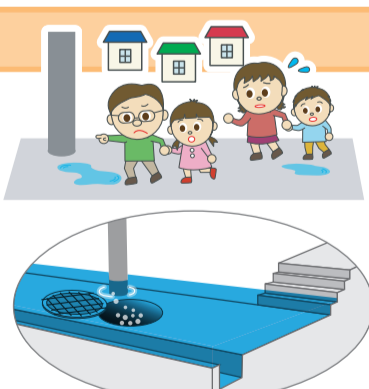
◎持ち出し品は日ごろから準備し、すぐに持ち出せるようにしましょう。
◎持ち出し品はできるだけ少なくしましょう。
(ラジオ、飲料水、懐中電灯、医薬品、ペーパー用品など)



○大雨が降ってきたら○

無理せず安全な避難を心がけましょう

◎避難しようと思った時や避難途中で自宅近くの道路が浸水していたら、無理に避難所へ移動せず、浸水していない近くの高いところへ一時的に避難しましょう。
◎河川沿いや急傾斜地(がけ)沿いの道及び地下状道路(アンダーパス)は避けましょう。
◎大雨により蓋が外れたマンホールや側溝に足をとられる危険性がありますので注意してください。



避難情報の伝達

◎広報車や消防車による巡回広報や防災情報Eメールから伝達されます。
◎横浜市防災情報の電子メール配信サービス
<http://www.bousai-mail.jp/yokohama/> 横浜市 防災情報 Eメール 検索



その他のお問合わせ先

お問い合わせ内容	取り扱い部署	連絡先
地域防災・避難等に関する内容は	保土ケ谷区役所 総務課	334-6226
人命救助・救急に関する内容は	保土ケ谷消防署	334-6696
道路・下水に関する内容は	保土ケ谷土木事務所	331-4445
ガレキに関する内容は	建設局 建築防災課 けけ防災担当	671-2948
河川	浸水想定区域全般に関する内容は 神奈川県 県土整備局 河川下水道部 流域海岸企画課	210-6479
	県管理区間の河川に関する内容は 神奈川県 横浜川治川事務所	411-2500
	河川法準用河川等に関する内容は 道路局河川管理課	671-2855